

再 評 価 書

箇所名	二級河川安濃川・岩田川	事業名	広域河川改修事業	課 名	河川・砂防課
事業概要	工 期 (下段前回)*	H15年～ H44年	全体事業費 (下段前回)*	11,356百万円(負担率：国0.5：県0.5)	
		H15年～ H44年		11,356百万円(負担率：国0.5：県0.5)	
事 業 目 的 及 び 内 容					
(事業の背景と目的)					
<p>安濃川は、その源を芸濃町の山間部に発し、安濃町を南東方向に流下し、津市小舟において穴倉川を合わせ、東に向きを変えた後、美濃屋川を合わせて津市の中心市街地を貫流して伊勢湾に注ぐ二級河川です。</p> <p>岩田川は、その源を津市片田薬王寺町地先の貯水池に発し、野田浜垣内地先で三泗川を合流した後、南東へ流れを変え、津市の中心市街地を貫流して伊勢湾に注ぐ二級河川です。また、三泗川は、藤堂高虎の治水事業により設けられたもので、洪水時に安濃川の水の一部を岩田川へ流し、津城下を洪水から守る仕組みになっています。</p> <p>主な被害として、昭和49年7月の集中豪雨と平成16年9月の台風21号で大規模な家屋浸水被害が発生しており、中でも平成49年7月の集中豪雨では、津市内で4万人を超える被災者、12,500戸を超える家屋が浸水し、そのうち、安濃川・岩田川流域では、5,000戸を超える家屋が浸水しました。</p> <p>本事業は、安濃川・岩田川沿川の浸水被害防止を目的として、河床掘削、護岸整備等の施工により河川改修を行い、流下能力を増大させ、治水安全度の向上を図ることを目的としています。</p>					
(事業の内容)					
<p>事業の内容は次の通りです。</p> <p>延長：(安濃川)11,100m、(岩田川)6,300m、(三泗川)1,100m</p> <p>①河道掘削 1,046,400 m³ ②築堤 21,620m ③護岸 13,260m ④道路橋 6橋 ⑥用地買収 1式</p>					
事 業 主 体 の 再 評 価 結 果					
1 再評価を行った理由					
<p>前回再評価後、一定期間が経過し、なお継続中であるため、三重県公共事業再評価実施要綱第2条(3)に基づき、再評価を行いました。</p>					
2 事業の進捗状況と今後の見込み					
<p>① 平成15年度に河川整備基本方針、河川整備計画を策定</p> <p>② 平成25年度までに事業費ベースで9%（工事費17%、用地費1%）が完成予定 整備状況としては、岩田川で河口から五五六橋（河口から5.5km）付近までの護岸整備が概ね完了しています。 現在、五五六橋（河口から5.5km）から泉橋（河口から5.9km）までの護岸整備を実施しています。</p> <p>③ 今後の見込み 岩田川の整備完成後、三泗川から安濃川へと順次進めていきます。 平成44年度の整備完了を目標としています。</p>					
3 事業を巡る社会経済情勢等の変化					
<ul style="list-style-type: none"> ・安濃川、岩田川は、津市の中心市街地を貫流しており、依然として治水事業の必要性は高い状況です。 ・水田地帯となっている中上流部には、伊勢自動車道津インターチェンジや国道23号（中勢バイパス）があります。また、中勢バイパス東側にある「メッセウイング三重」の隣に、津市屋内スポーツ施設が計画されています。 ・大規模災害について市民の不安が高まっており、「津市・住民意識調査」（平成24年2月）において「災害に強いまちの推進」が最も重要度が高い評価となっています。 					

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析 (H17 治水経済調査マニュアル(案)により検討)

(平成25年度 費用対効果分析結果)；

費用便益比(総便益/総費用) $B/C=38.50$

※総便益 $B=$ 総便益(現在価値化) + 残存価値(現在価値化)

※総費用 $C=$ 総費用(現在価値化) + 維持管理費(事業費の0.5%、現在価値化)

【 B/C 変化の要因】

全評価期間の費用・便益について社会的割引率を用いて現在価値化した結果、便益、費用とも増となったが、資産増に伴う便益の増加が大きく、 B/C が増加しました。

4-2 その他の効果

安濃川、岩田川は津市の中心市街地を貫流している河川であり、重要交通網である JR 紀勢本線、近鉄名古屋線、国道 23 号、国道 23 号(中勢バイパス)等が横断しています。浸水が発生するとこれら交通網に影響を与え交通途絶となれば、より深刻な被害が想定されますが、河川改修によりこれらを軽減することが可能となります。

4-3 地元意向

安濃川及び岩田川下流の市街地には、多数の人家や学校、病院、公共施設などが集積しています。このため、地元自治会連合会から、河川整備への強い要望があります。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

- ・河床掘削等による発生土を、築堤盛土に有効利用し、建設副産物の発生抑制に努めます。
- ・護岸材料、工法を選定する際は、新技術等の情報収集を行い、コスト縮減に努めます。

5-2 代替案

「遊水地・調節池案」が「河川改修のみの案」や「ダム案」に比べ最も安く経済的です。

このことにより、安濃川河川整備基本方針では、「遊水地と河道改修を組み合わせ案」となっています。

このうち、当事業では河道改修を行うものであり、現在まで進めてきた改修とも整合していることから、現行の河道改修が妥当と考えます。

再 評 価 の 経 緯

① 平成 15 年度に河川整備基本方針、河川整備計画を策定

② 平成 20 年度に事業再評価を実施

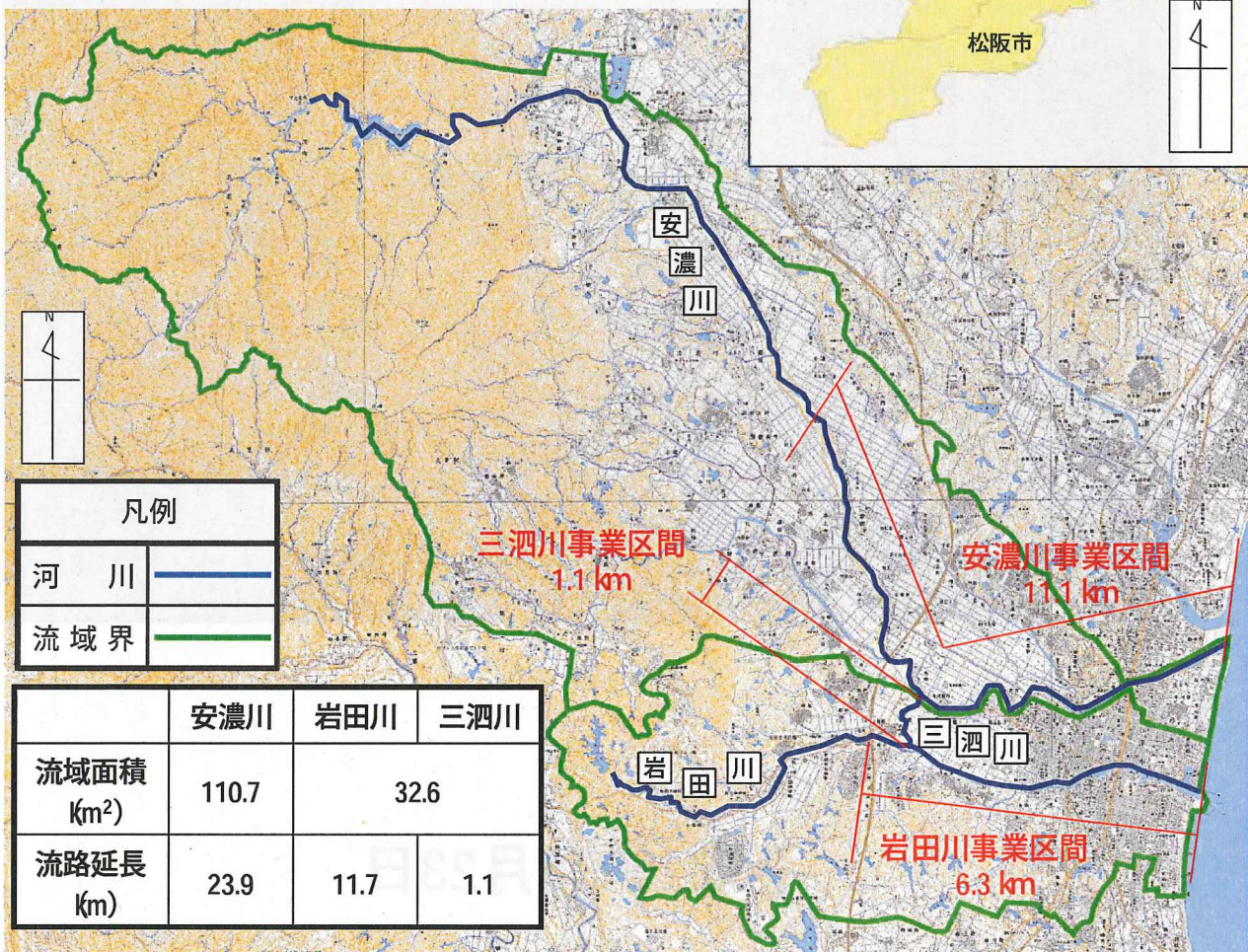
平成 20 年度委員会意見

「事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。」

事 業 主 体 の 対 応 方 針

三重県公共事業再評価実施要綱第 3 条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第 5 条第 1 項に該当されるため当事業を継続したいと考えています。

面特再 05H
6-11



安濃川 岩田川流域図

(所 務 事 務 部 製)